

災害研職員を対象とした AED 使用講習会(第 6 回)を開催しました(2019/6/17)

テーマ：質の高い胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）、119 番通報
 場所：東北大学災害科学国際研究所棟（宮城県仙台市）

2019 年 6 月 17 日（月）、東北大学災害科学国際研究所棟において当研究所職員を対象とした AED 使用講習会（第 6 回）が、災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野の佐々木宏之助教の企画で開催されました。東北大学総合地域医療研修センターの今井浩之先生（救急救命士）が講師を務め、佐々木助教が講習のサポートを行いました。

今回は昨年度に引き続き、アメリカ心臓協会(AHA)の Family & Friends CPR を実施し NPO 法人日本 ACLS 協会より修了証が発行されるように手続きしました。DVD 視聴後、実技を行う、の繰り返しで①質の高い胸骨圧迫、②AED 使用、③119 番通報について学習しました。傷病者役のシミュレーターには胸骨圧迫の過不足を測定するモニターが装着されており、受講者は実施している胸骨圧迫が十分か否かをモニターで確認することができます。総まとめとして④傷病者の発見から接触・意識の確認・応援要請・AED、119 番通報の依頼・呼吸確認・胸骨圧迫・AED 使用を一連で実習し、最後に⑤窒息への対応を学んで、約 2 時間の講習を終了しました。楽しい雰囲気講習会は進められ、乳幼児・子供への胸骨圧迫はどうするのか、胸骨圧迫で骨折しないのかなど、受講生はその都度疑問点を解消しながら研修を進めました。1 分間の胸骨圧迫ですら息が切れるほどの労力であることを実際に体験し、受講者は意識を失った人を助けるには迅速な対応と多くの人手が必要なことを理解しました。



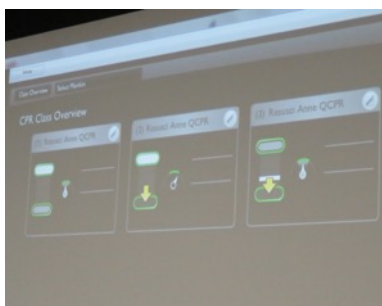
講師の今井救急救命士



DVD 視聴で概要を
学習する受講生



胸骨圧迫深さ 5cm は
結構きつい



モニターで胸骨圧迫が
十分か判断



胸骨圧迫を続けながら
AED を準備



終了後、受講者全員で